

ぜんしゅりきょり

2013
3月
March

通巻73号

ニューリーダー部「設立までと5年の歩み」

平成	月	内 容
17	4	全日本宗教用具協同組合政策提言委員から答申
18	3	総務委員会より全組組合員へアンケート調査実施
	10	京都開催の全国研修会で全体討議(第1回 入会申込者会議)
	2	「(仮称)ニューリーダー部」理事会で設立承認 鎌倉 入会申込者による意見交換会開催(第2回 入会申込者会議) 設立準備委員会(委員長:吉田光宏)を設置
	3	設立準備委員会(第1回)開催 東京
	4	入会申込者対象のアンケート実施
19	5	設立準備委員会(第2回)開催 京都 第3回ニューリーダー部 入会申込者会議 金沢
	7	入会受付開始 設立準備小委員会(第3回)開催 大阪
	8	ニューリーダー部申込者 高野山研修会 ニューリーダー部 入会申込者会議 和歌山
	10	創立総会 奈良
	2	“こんな仏壇あったらいいなコンテスト”への参加と協力 養老猛氏講演会への参加 都内仏壇店見学(ギャラリーメモリア東京銀座様、株はせがわ銀座本店様、株浜田商店様、株滝田商店様)
	5	通常総会 名古屋 研修会 講演 講師 志賀内弘弘氏「ギブアンドテイクでうまくいく」 講演 講師 石倉正二郎氏「マーケティング思考が必要な理由」
20	8	新潟研修会 妙光寺参拝及び廣川仏壇店様見学
	10・12	仏壇仏具市場規模調査アンケート実施
	12	静岡研修会 お仏壇のやまき様見学 市場規模調査アンケート集計
	2	京都研修会 「宗教用具業界の現状調査の結果報告アンケートから読み取る業界の指針」
	4	徳島研修会 森正様見学
21	5	通常総会 博多
	8	東京研修会 講演会 東京仏壇講習会『東京仏壇の匠』 講演会 吉田NL部部长『知っていますか お仏壇の意味』 カメヤマロウソク様店舗 見学
	2	こんな仏壇あったらいいなコンテスト 運営協力
22	5	通常総会 札幌
	7	富山研修会 鋳物工場見学
	10	京都全国研修会 パネルディスカッション企画、運営
	2	東京研修会 浄土宗大本山増上寺参拝・研修 講義 谷中勲氏「仏壇店の営業力UP・人材育成・事業承継について」
23	5	通常総会 広島 広島原爆ドーム見学
	11・12	遣佛使 京都・四国・沖縄・屋久島
	2	東京研修会 遣佛使報告会
	5	通常総会 高知
24	9	延暦寺研修会
	10	京都研修会 講師 岡田達信氏「絵本に学ぶコミュニケーション術」企画 ディベート「これからの日本に伝統型仏壇は不要である」企画

【目次】

P1	24年度全国研修会開催・ニューリーダー部創立五周年式典
P2	パネルディスカッション
P3	講演 藤尾秀昭氏
P4	花まつり・事務局からのお知らせ



小堀賢一理事長

最初に廣川俊輔部長より挨拶があり、「昨秋五周年を迎えたこの会は、組織作りから運営まで全て自分たちの手で作り上げて来ました。その中で私

は三代目の部長就任に際して「人間力の向上」をテーマとして掲げましたが、創部初年度の基本指針である『共に学び、共に進む』というNL部の象徴たる基本精神を継承していきたい。これらも本当の意味で時代の変化・消費者の変化に対応できるように、業界の未来を真剣に考え行動し、そして明るいものにしていく使命があります。これからも、ご指導・ご鞭撻を宜しくお願いいたします」との発言がありました。

秀な方たちがいることに驚き、部会ができて本当に良かったと思っております」とのお言葉をいただきました。さらに吉田光宏初代部長からも「当時の安田理事長から頼まれて四十歳で部長を引き受けましたが、本当に勉強になったと感謝しております。これからも明日の業界を担う若い人たちがどんどん入って来て盛り上げていただき、NL部が発展していくことを祈念しております」と、ご祝辞をいただきました。

ニューリーダー部創立五周年式典

平成25年2月25日、東京・日暮里のホテルラングウッドにて第2回全国研修会が開催され、全国各地から総勢80名が参加されました。今回は、ニューリーダー部設立5周年記念式典と併せて開催され、ニューリーダー部パネルディスカッション、株式会社致知出版代表取締役社長 藤尾秀昭先生をお招きし、「出会いの人間学」と題してのご講演をいただきました。

小堀賢一理事長ご挨拶の後、ニューリーダー部副部長安田元慶氏の司会のもと全国研修会が行われました。

平成24年度全国研修会を東京で開催!!

最後に廣川部長から記念に作成したバッジの披露が行われ、記念式典は盛会の裡に終了しました。



廣川俊輔氏



吉田光宏氏

パネルディスカッション

ニューリーダー部「今までの五年間、これからの五年間」

参加者

- 司会 前田平八(二代目部長)
- 吉田光宏(NL部OB・初代部長)
- 浅野秀浩(NL部OB)
- 保志康徳(NL部OB)
- 廣川俊輔(三代目(現)部長)



4名のパネリスト



司会の前田平八氏

司会 一番印象深かったことは何ですか？
吉田 設立の経緯が一番印象に残っています。

浅野 準備委員会でのこの業界にはバラ

スのとれた優秀な人材が多数いることを知りました。

保志 今日本来なら川本社長がこの席に座るはずでしたが、代わりにここに座ることになり川本さんの代理で務めさせていただきます。

廣川 吉田さんと前田さんが新潟に来て三人で温泉に入りながら部長就任を説得されたことが一番印象深いですね。

司会 そもそもなぜNL部が創られたのでしょうか？

吉田 若い人たちが集まれる場を作ろうというところから始まったと聞いています。当時業界には閉塞感があつて、新しい力で盛り上げていかなければいけないという機運がありました。

リーダーと役職は別。リーダーはその人自身がどういう人であるかということで評価が決まります。「この人ならば」というリーダーが必要とされていたのですね。

司会 当時、期待していたことは、何ですか？

浅野 全宗協には、メーカー・卸業・小売店など様々な業態の人が参加しています。エンドユーザーに近い会員が市場の情報を提供できる組織として位置づけられたいと思えました。

保志 日本文化の伝統を誇りをもって伝えていける業界になって行くことが大切なことと思います。

廣川 同じ悩みを抱える伝統産業の他の業界の方と枠を超えて意見交換をしてみたいと考えていました。

司会 事業を振り返ってみて、どうでしたか？

保志 事業の中で業種業態を超えて一体感を共有できる機会が増えたのは、喜ばしいことでした。

浅野 名古屋で実施したマーケティングの研修が勉強になりました。

廣川 アンケートの回収率にもっといい案があつたのではないかと思います。

吉田 皆で学んでいくことが大切です。比叡山での研修や会津での研修などは、とても良かったですね。

司会 現状では、何か課題や問題点はありますか？

廣川 部員数よりも参加率が課題。参加しやすい研修を企画していきたいです。

司会 これからの運営への意見は？
保志 従来の価値観が衰退期にある時

は新しい価値観の黎明期に当たりますからこのチャンスにしっかりと乗っていきましょう。積極的に若手に入会を勧めていただくことを期待しています。

浅野 共に学び共に進む。今しかできないことを学ぶ。海外の工場も見ておかなければならないと思います。

墓石業種やお寺・僧侶との連携の機会を持つなどの魅力あるメニューも必要ではないかと考えています。

司会 「一回行ってみようかな」と思わせるには何が必要と考えますか？

吉田 全宗協の会員の皆様が若い人を送り出していたいただきたいですね。人間力が向上して行く人たちの集まりになると部も発展していきます。

廣川 お酒の席でも社会勉強をさせてもらいました。その年だけのテーマに終わらずに継続継承していくことが大切です。

司会 明日明後日に繋がる運営を、今後ともお願いしていきたいと思えます。今日ありがとうございます。



パネルディスカッション風景

講演

藤尾秀昭先生の講演を拝聴して

先生は「出逢いの人間学」と題して三つの柱で講演されました。

◆一つ目の柱◆

一つ目の柱は「経営発展の三要素」。一つは「経営能力」（商品開発能力・財務能力・経営戦略能力）。二つは「使命感」。三つは「人間性」。イエローハット創業者の鍵山秀三郎さんは「最大のサービスは社員の人格を上げることだ」と言っておられますが、人間性の悪い会社は一時は伸びても、決して長期にわたっては繁栄しない。私たちの業界もともすれば商品力や接客技術なノウハウには気を配っても、それらを支える土台としての「人間性・人間力」はおろそかに考えてしまいがちです。これはとても重要なことだと思います。

◆二つ目の柱◆

二つ目の柱は「成功する人・会社の二つの法則」。一つ目。成功する人に共通しているのは、自分の与えられた縁・人間関係・仕事・環境の中



藤尾秀昭先生と真剣に聞き入る参加者のみなさん

で徹底して価値を見出し、一旦見出した価値を徹底して磨いている人。昨年「置かれたところで咲きなさい」という本がベストセラーになりましたが、成功する人はまさに「一所懸命」な人だと思います。もう一つの法則。それはあらゆる組織体はNo.1とNo.2の呼吸がピッタリ合っていない組織は絶対に発展しないということです。家庭でも同じ

ことで、奥さんがご主人を尊敬している家庭の子は伸びると言われています。

◆三つ目の柱◆

そして三つ目の柱が「人間学です」。藤尾先生が「致知」を世に出しておられる一番の目的です。一八五三年ペリーが来て日本がひっくり返るほど大騒ぎになった時、二〇代二〇代の青年たちが立ち上がって日本を守った。そのバックボーンとなつたのが「人間学」。人間には徳性がある。本(もと)の学問とはこの徳性を養う「人間学」。これが隆盛にならないと日本は滅びると先生は力説されました。先生の尊敬される哲学者の森信三先生は「教育とは三つの躰に尽きる」と

言っておられます。京大の総長を務められた平沢興先生は「教育とは心に火をつけることだ。しかし、自ら燃えなければ火をつけることはできない」と言っておられます。出逢った先達たちはみんな「人間学」

の大家。藤尾先生はこうした各界の先輩たちが自分の体験を通して得た叡智を学んでいこうと、この「致知」という本に日夜心血を注いでおられます。

講演の最後に陽明学の大家、安岡正篤先生の「萬灯行」を紹介されて、「一流の人は学び続ける」と結ばれました。

私も仏壇仏具の業界を支える人間も、この日の藤尾先生の貴重なお言葉の数々をよく噛みしめて、ますます業界の改革と発展に努めて行かなければならないと心に誓いました。

(了)

講師プロフィール

藤尾秀昭 先生

株式会社致知出版社・代表取締役社長兼月刊『致知』編集長。創刊以来、月刊誌『致知』の編集に携わり、昭和54年に編集長に就任。平成4年には社長に就任し、現在も取材で全国を飛び回っている。

『致知』とは、古典『大学』にある「格物致知(かくぶつちち)」からとられた言葉で、「いつの時代でも仕事にも人生にも真剣に取り組んでいる人がいる。そういう人たちの心の糧になる雑誌を創ろう」という理念のもとに創刊され、オンラインワンの雑誌として今年で創刊35年を迎える。

花まつりを盛り上げましょう



今年も花まつりの時期になってまいりました。会員のみなさまにもご協力いただきたく、毎年この時期には花まつりのポスターとハガキをお送りしております。今年も皆様のお手元に届いていることと思いますので、積極的に花まつりのPRをして、盛り上げていきましょう。

※ 全日本仏教会様よりメッセージを頂きました ※

四月八日はお釈迦さまのお誕生日です。一般的には花まつりと呼ばれ、法要はもちろん、パレード・ライブ・落語など、寺院を中心に地域の皆さんと一緒にお祝いをしています。約二千五百年前、お釈迦さまがご生誕された際に、空から甘露の雨が灌がれたことから、花まつりの際は、花御堂のお釈迦さまに甘茶をかけることが通例です。

花まつりの意義とは、お釈迦さまのご生誕をお祝いすることを通して、いのちの尊さを学び、日常をふりかえることにあります。お釈迦様は、ご生誕時に『天上天下唯我独尊』とおっしゃったといわれています。これは単に「お釈迦さまが尊い」という意味だけでなく、「この世のすべてのいのちは尊い」ということを伝えています。そんないのちを生きる私は、はたして「人とどう接しているか」「食べ物はどのようにいただいているか」「自分の体とどんな対話しているか」など、私と同じく、尊いいのちを生きる他者とのような関係を結んでいるかを振りかえる機縁になります。

全日本仏教会では、花まつりを推進し、いのちの尊さを説く仏教を身近に感じてもらえるよう取り組んでまいります。皆さまのご協力を宜しく申し上げます。

全日本仏教会

事務局からのお知らせ

1. 当面のスケジュール

- 平成25年4月18日(木) 役員会 (東京 情報オアシス神田)
- 平成25年5月21日(火) 通常総会 (京都ホテルオークラ)
- 平成25年6月下旬 役員会、委員会 (メルパルク京都)

2. 組合員数 平成25年3月22日現在 368名

新規加入者 平成24年11月9日以降

- ①(株)中島晴薫堂 中島康憲 様
- ②(株)田中伊雅佛具店 田中雅一 様

平成25年4月27日(土)

「仏壇公正競争規約」が
全面施行となります!!